

介護施設の人材不足はきわめて深刻な状態 市の総合事業は経営危機に拍車。市民フォーラムで浮き彫りに。

「介護人材確保のための市民フォーラム」が6日、教育プラザでありました。テーマは“老いても安心して暮らすために”。会場には、参加者が座りきれないほどの人たちが集まりました。

私は都合で途中参加でしたが、特養ホームよねやまの里施設長の石田浩二さん、上越保健医療福祉専門学校校長の歌川孝子さんなど3人のシンポジストの話を聴くことができ、また、全体討議も聴くことができ、介護人材確保の現状と課題をつかむことができました。

このうち、石田さんの報告では、特養ホームでは80%にもなるという介護施設の人材不足が極めて



で深刻であることが浮き彫りにされました。人材不足は利用者へのサービス、職員の労働環境などにも重大な影響を与えます。施設の運営で人件費が76%を占め、これまでの蓄えを切り崩して運営しているそうです。上越市が進めてきた総合事業については、利用者は増えているものの、収入はいままでの8割にカットされていることから、「制度改革の課題」の一つだと報告されました。

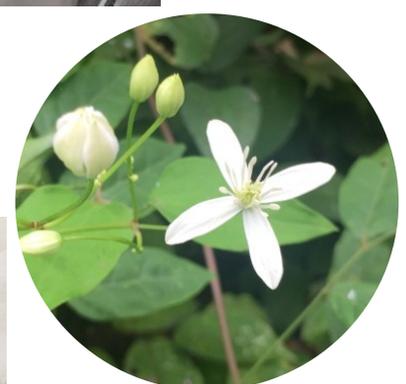
全体会の中では、元日本介護福祉学会会長の井上千津子さんがシンポジストの発言、報告を整理してくださいました。人材不足が介護サービスの質の低下、過重労働などの悪循環をつくりだしているということ。介護には専門職の人が必要であるということ。いま介護に求められているのは、量と質。人材不足を解決し、介護の質を高めていく取組が求められていることの3点です。とてもいいフォーラムでした。

低コスト農業めざす努力

9日は市議会食糧農業農村議員連盟の視察でした。板倉区の高野生産組合、くびき野森林組合、ドローン実証事業実演会視察を朝9時にスタートし、午後3時半頃までかけて行いました。高野生産組合では、国の農業政



策の新たな展開の中でICT（情報通信技術）を駆使した低コスト農業



【センニンソウ】キンポウゲ科の多年草。漢字で「仙人草」と書きます。花は白く、形はボタンツルと同じく見えますが、葉の形が違います。こちらは卵状の楕円形です。吉川区上川谷にて13日、撮影しました。

業生産についての必死の努力が伝わってきました。くびき野森林組合では中川組合長（写真）などから厳しい実情を報告してもらおうと同時に、市単独の小規模補助事業創設を要請されました。ドローンの実演は吉川区泉地区の圃場にて小雨の中、決行されました。農薬でなく、水を散布しての実演となりました。

災害時、「近所に助けられる人いない」が25%も

厚生常任委員会が7日開かれ、市の健康増進計画、歯科保健計画、障害者福祉計画などの所管事務調査が行われました。このうち、歯科保健計画では、「フッ化物の塗布、洗口はリスクも明らかにしながら保護者の同意をとるべきではないか」「歯周病対策は啓発から一歩踏み込んだ対



柿崎区の光徳寺で行われていた作品展で展示された秋山清一郎さんの素敵な牛の絵。

策を」「医師の偏在について、どうしたらいいのか検討すべきだ」などの意見が出ました。また、障害者福祉計画では就労移行支援で交通手段のことや災害時の避難についてのアンケートのことがとり上げられました。災害時、近所に助けられる人がいないと答えている人がいまだに25%もいるとはびっくりでした。

「市民意見お聴きする会」

日本共産党議員団主催の「市民意見をお聴きする会」は24日（木）午後7時から市民プラザ第2会議室において実施します。ぜひお出かけください。



No.1820 2017.8.20
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見てある記」はこちら
橋爪法一 検索

春よ来い

第四六八回

いないいないばあ

五月の連休にやってきたときは、わが家のメンバーの誰にも抱かれようとしなかった孫のリョウ君。お盆の一日、再びわが家にやってきました。

母は「まあ、いい子になったな」と言いつて両手を広げ、「おいで」の合図を何度も送りました。しかし、リョウ君はまったく気にとめることなく、今回も母のところへ行こうとはしませんでした。

「また、だめか」……そんな空気が漂い始めてまもなくでした。意外なことが起きたのです。母のとっさの判断だったのでしょいか、母が両手で自分の顔を隠しながら、「リョウちゃん、いないいないばあ」とやると、リョウ君が母のその動作に関心を示したのです。

チャンス到来とばかりに母は最高の演技力で「いないいないばあ」を繰り返しました。両手で小さな顔をすつかり隠し、手を離すと最大の笑顔を見せる。リョウ君はその姿がすつかり気に入って母の方を向き、うれしそうな表情を見せてくれました。これで母とリョウ君との距離はぐんと縮まりました。

わが家にやってくる前にリョウ君は両親とともに尾神にあるわが家の墓に行き、お参りをしてきました。また、飛行しているパラグライダーも観てきました。動き回ったことで、お腹が空いていたようです。

母との「いないいないばあ」が終わると今度はテーブルの上にあるものに興味を示しました。最初は、ヨーグルト入りのモモをパクパクと食べ、次いで、にぎった朝ご飯の残りを食べようとしました。

じつは、妻はお昼用にと鯛めしを用意していましたが、鯛めしを炊くために、朝の残りをたまたまおむすびにしておいただけなのですが、それを食べれば、お腹がいっぱ

いになってしまはず。妻はそのおむすびから関心をそらそうと必死でした。ところが鯛めしの方はまだ炊きあがらないときいています。仕方なく、モモを予定した以上に食べさせるとい結果になりました。

面白いと思っただのは、母も妻もそれぞれリョウ君と文字通り接触したいと思っただこと。何と言っても三か月前にまったく触らせてもらえないという「悲劇」を味わっていましたからね。

母は、リョウ君がモモを食べることに集中している間に後ろからリョウ君の頭に触り、「いこいこ」することに成功。鯛めしを喜んで食べてもらえた妻は、食後は外に連れ出し、手をつないで散歩を楽しみました。小指を出すとつかまってくれたとか。

もちろん、私も今度こそという思いがありました。大出口泉水の冷たい水をペットボトルに入れて用意しておきました。そして、散歩から戻ってきたリョウ君とそのペットボトルを使って、「はい、どうぞお飲みください」「ごっこを実行したのです。ペットボトルのキャップをつけたまま、相手のコップに水を入れる仕草をする。

「はい、入りましたあ。どうぞ、どうぞ」とやるわけです。水が「注がれた」段階で、今度はコップを口のそばに持つていき、ごくりごくりと飲む仕草をする。リョウ君はこの遊びをとんでも気に入ってくれました。おかげで「たかい、たかい」もできましたし、私の大きなお腹の上のぼって遊んでもくれました。

子どもはどんどん成長します。前回会ってからわずか三か月ですが、その間にリョウ君は歩けるようになりました。どんなことでも関心を示し、動きまわります。母はひ孫と別れるとき、「両手でバイバイしてくれ」と涙を流して喜びました。

川上笑学館で「棚田コンサート」今回はオカリナとフルート演奏



お盆を目前にした土曜日の夕方、牧区泉町内会が取り組んでいる「棚田の稲ほたる祭」に行ってきました。あいにくの雨で1800個の稲ほたるは見ることはできませんでしたが、川上笑学館での「棚田コンサート」を楽しませてもらいました。

オープニングは牧中学校生徒などによる「よさこい」でした。「よっちょれ」などを楽しく、元気よく踊ってくれました。

今回のコンサートは榎本正一さんによるオカリナ&フルートの演奏がメインでした。川崎祥子さんの素敵

なピアノ伴奏のもとに、この日のために榎本さんが作曲された「TANADA～夜空に降る星」のほか、「さんぽ」「少年時代」などの名曲の演奏を披露してくださいました。トトロの「さんぽ」の軽快なリズム、尾崎豊の愛情たっぷりの「I LOVE YOU」までオカリナで演奏できるとは感動でした。

コンサート会場では牧区の泉や高尾などの人たちやフェイスブック等で交流のある人からもたくさん声をかけていただきました。ありがとうございました。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	8月9日(水)	8月16日(水)
上越南消防署	0.047	0.050
上越北消防署	0.050	0.047
新井消防署	0.050	0.050
頸北消防署	0.043	0.043
頸南消防署	0.053	0.063
東頸消防署	0.047	0.057
高士分遣所	0.050	0.053
名立分遣所	0.057	0.050

終戦記念日に「戦争はダメ」アピール

終戦記念日の15日、日本共産党と市民グループ10人が浦川原物産館近くの国道沿いで、「戦争ノー」のスタンディングを行いました。

北朝鮮情勢が緊迫しています。挑発、脅かしは直ちに中止し、平和的な話し合いを！

